府政記者室、中丹・丹後広域振興局　同時資料配付

丹後曳縄会（たんごひきなわかい）が水産庁長官賞を受賞！

～第27回全国青年・女性漁業者交流大会～

令和４年３月３日
京都府水産事務所

全国漁業協同組合連合会では、全国の青年・女性漁業者が日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに、参加者間の交流により知識や情報を共有し、水産業・漁村の発展と活性化を図ることを目的に、毎年「全国青年・女性漁業者交流大会」を開催しております。

今年度の第27回大会において、京都府代表の丹後曳縄会（※）が、水産庁長官賞を受賞されましたのでお知らせします。

（※）丹後曳縄会：宮津市栗田地区のサワラひき縄漁業者が主となり、平成26年１月に結成。現在、会員数は11名（栗田10名、舞鶴１名）で、漁業生産の拡大、経営の安定化等を目指し、漁具や操業方法の改良、サワラの高品質出荷等を実践中。

【受賞内容等】

１　課題名　　サワラひき縄漁業の経営安定化を目指して
　　－ 新たな操業方法の確立、船上活け締め出荷による収益向上 －

２　受賞者　　丹後曳縄会　（発表者　改發（かいはつ）　匡恒（まさつね）　氏
　　※京都府漁業者育成校「海の民学舎」の第１期修了生）

３　受　　賞　　水産庁長官賞

４　発表内容　　別紙参照

※「海の民学舎」では、平成26年度から、京都府の水産業の振興と北部地域の活性化に向けて、新たな個人漁業者や漁業経営体の育成、若手漁業者の経営力向上、加工・海業等の漁村ビジネスおこしのリーダーの育成を行っています。

発表の様子

（参考：大会の概要）

１　開催日　令和４年３月２日（水）　【リモート方式で開催】

２　場　所　ホテルグランドアーク半蔵門（東京都千代田区隼町）

３　主　催　全国漁業協同組合連合会（後援；農林水産省ほか）

４　表彰部門等

・大会は活動内容によって５部門に分かれて取組事例の発表（発表課題総数 23）が行われ、改發氏は、第２分科会「漁業経営改善部門」で発表（発表課題数 5）

・水産庁長官賞は農林水産大臣賞に次ぐ２番目の賞

（お問い合わせ）
京都府水産事務所　海のにぎわい企画課　課長補佐兼係長　久門（くもん）
TEL：0772-25-3030　　FAX：0772-22-3289

別紙　【概要】

サワラひき縄漁業の経営安定化を目指して
－新たな操業方法の確立、船上活け締め出荷による収益向上－

１　活動取組の動機

・丹後曳縄会は、宮津市栗田及び舞鶴市舞鶴地区のひき縄漁業者により平成 26 年 1 月に結成。現在の会員数は 11 名（平均年齢 62 歳）。会では、これまでの知識や経験をもとに操業を行ってきたが、近年低迷が続いていた。
・そこで、平成 31 年 1 月からサワラひき縄漁業の経営安定化を目指し、効率的で生産性の高い新たな操業方法の確立、船上活け締め出荷による収益向上に取り組むこととした。

２　実践活動の状況

(1) 新たな操業方法の確立

・府と市の補助事業を活用し生産性向上等に向け小型ソナーと自動巻き上げ機を導入。
・小型ソナーは会員の代表船 2 隻に配置、会員は操業時に代表船と携帯電話や無線機で連絡をとり、探知情報を会員で共有することで漁獲量の増大と操業時の無駄な航行を削減。自動巻き上げ機は、操業時の各種作業がスイッチ操作で簡単かつ迅速に行え、これまでの手作業と比較して作業性、生産性が大幅に向上。漁獲物の船上での活け締め処理の迅速化にも大きな効果を発揮。

(2) 船上活け締め出荷

・今後の参考にするため、島根県への調査を令和元年 9 月に実施し、出荷方法のほか漁具や操業方法に関する有益な情報を多数入手。
・視察後に、府水産事務所の協力を得て生産出荷マニュアルを作成配布し、その実施徹底を図り、市場や地元仲買組合と実施内容を調整の上、令和 2 年 1 月下旬から船上活け締め出荷(専用袋使用、重量 2kg 以上で脂肪含量 10%以上の魚に専用タグ装着)を開始。

３　活動成果等

・各種の漁具改良と操業試験を繰り返し行い、得られた成果を会員で共有しつつ、ソナーや自動巻き上げ機を組み合わせた操業方法の定着に努めた結果、深場の漁場で大型サワラが効率的に漁獲できるようになり、令和 2 年の年間出荷量は前年の約 1.8 倍の約 18 トン、年間出荷金額は前年の約 2.3 倍の約 1,250 万円となった。令和 3 年も好調で、前年を上回る出荷金額となった。出荷量全体に占めるサワラ銘柄(重量 1.5kg 以上)の割合も大きく向上。
・船上活け締め出荷に関しては、市場や仲買組合から「丹後曳縄会のサワラは鮮度、品質が良い」と一定の評価をもらっている。出荷時の単価は、新型コロナの影響などもあり、厳しい状況にあるが、令和 2 年 4 月から令和 3 年 11 月に市場に出荷された活け締めサワラの平均単価の状況を調査したところ、会の出荷物の平均単価は、他の出荷分と比較して約 15%上回っていた。
・会員で一致協力して、地元の海に合った効率的で生産性の高い新たな操業方法を一定確立、また会独自の船上活け締め出荷の定着を図ることができ、これらにより収益の向上、経営安定化につながった。会の取り組みが知られ、小型ソナーや自動巻き上げ機を新たに導入する漁業者が増えるなど、サワラひき縄漁業への期待が高まっている。